



2017年4月入職

さいとうはるみ  
齋藤 治美

## 患者さまの声はすべて、わたしたちへの期待の表れ

### 患者さまの個性に向き合って

現在勤務しているクリニックは5つのフロアに透析室があり、ベッド数が100床という大規模施設です。私は新規開院のタイミングで、他の施設から異動となったため、当初はさまざまな戸惑いや不安がありました。約270名におよぶ患者さまのお名前や生活背景を把握できないどころか、ベッド番号も覚えられず、業務を行うことに精一杯だったことを覚えています。それまでは患者さまお一人おひとりの個性を重視した看護を心がけていたのですが、自分のスタイルをすっかり見失っていました。

そんなある日、ひとりの患者さまから「齋藤さん」と呼ばれ、ハッとしました。それまでは余裕がない状況を仕方ないことだどこかで諦めていたのですが、その患者さまは多くの看護師がいる中で私の存在をちゃんと認識してくださっていることに気が付いたのです。「いまの姿勢は間違っている」と心を入れ替え、それからは患者さまお一人ひとりに対してしっかりと向き合うようになりました。

以降は、「次はいつこのフロアに来てくれるの?」「また刺してくれる?」「異動してそろそろ1年だね」など、多くの温かい言葉をいただいています。温かいお言葉は、施設での患者さまアンケートを通して目にすることもあり、中にはご指摘のお言葉もありますが、患者さまは私たちに期待してくださっているからこそ、ペンを執ってくださっていると捉え、すべてのお声を前向きに受け止めています。



### 知的欲求の高いスタッフの中で



私が善仁会に入って良かったと感じたのは、知的欲求の高い人たちが集まっていて、組織としてもスキルアップを支援する制度が整っている点です。社内研修はもちろん、業務に関連する内容であれば社外研修や学会にも参加でき、資格取得支援制度もあります。子育て中の私も多くの刺激を受け、透析技術認定士をはじめ、入職後に新たな資格を取得しました。こうした環境の中、これからも透析医療という分野で専門性をさらに磨きつつ、思いやり行動の推進や後輩の育成にも力を入れながら、患者

さまの心の満足を追求していきたいと考えています。

思いやりの心で接し  
誠意と情熱をもって  
努めてまいります。

齋藤 治美